

事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要<卒業認定方針・教育課程編成方針・・中長期的計画・ ・人事・財務・事業計画の進捗度・>

ア) 入学者受け入れ方針

従来からインクルーシブで少人数の学習集団に、手厚い学習支援を実践し、更にこれを深化させ「我が子として入学から一生涯を」を旗印に教職員が一丸となって教育活動に取り組んできた。地域社会から一定の理解と評価が得られ定員を大きく割ることなく安定的に生徒を確保でき財政運営健全化にも好影響を及ぼしている。

イ) 教学 情報公開（監査・評価・改善等）の取組み

ウ) 教育課程編成

エ) 海外研修旅行について

<普通科>平成7年から実施している海外研修旅行は、平成12年からホームステイ及び現地高校生との交流（アクティブ）取り入れた。国際交流推進の観点のみならずその後の生徒の行動に大きな変化を与えており、生徒の自信醸成の意味からも積極的に取り組んできた。

平成24年からは、台湾の国立彰化女子高級中学校と姉妹提携を結びその強化の観点からも2泊のホームステイや交流を実施していたが姉妹学校の事情で1泊となっている。

<福祉科>福祉に関する専門的な研修を求めて先進国（北欧）での研修をしたいという生徒の要望もあり研究してきた。令和元年11月デンマークへの研修旅行を実施することが出来た。施設見学や高校生との交流、デンマークの福祉に対する考え等良い研修が出来た。

<美術科>パリへの研修旅行は、中断して5年、その間ヨーロッパの治安も安定して来ており、本年11月福祉科と同時に実施することが出来た。過去の経験を活かしながら充実した研修になった。

オ) 計画検討中の施設設備について

*校地の拡充、教育環境の整備は喫緊の課題であり、施設設備の延命化を図りながら計画的に進めている。体育館は、現所在地改築構想で80周年記念事業に位置付けている。

(2) 支援活動

ア) P T A ・ 振興会

P T A ・ 振興会総会には、毎年50%を超す会員の皆さんが参加する状況が定着している。公開講座や合唱フェスティバル・強歩大会等生徒との学習活動にも当事者として参加することで、学校の方針や状況をより深く理解し、建設的な提言を頂いている。健全な学校づくりのためにも大変貴重であり、今後も活発な活動を期待し支援している。

振興会は、卒業生の保護者が中心となり組織された会で本校の教育環境を整備することを目的にしている。校舎の改築や校地の拡充のための投資資金を計画的に積み立てており法人としても大変ありがたい。

イ) 同窓会活動

同窓会総会への参加者数は多くは無いが、日頃学校を訪れる卒業生は多く母校を想う気持ちの強い卒業生が多い。このような卒業生を束ねる同窓会の力は、我が校にとっては大切である。

「入学から一生涯を」は、我が校のモットーであり教職員と卒業生が一生涯を通じて響き合える絆は本校教育の根幹をなすものである。福祉科を例にするならば、卒業生へ国家試験受験を奨励したり、介護福祉士として抱える苦しみや悩み等の問題を話し合えるシステムを構築し、卒業生の資質向上と在校生の研修につながるような場を設けたい。

ウ) 花いっぱい運動

松本で始まった花いっぱい運動の当初から関わりを持った、本学園創立者で初代理事長の故土手内頼人氏の熱心な取り組みは、大きな推進力となり影響力を及ぼした。学校の教育理念と相通じることもあり、花壇の管理や助言、さらにはフラワーコンテスト、花壇コンクール等各種審査員の派遣等、積極的に関わりを持ってきた。松本の地に根を下ろす本校が、松本から全国へさらに世界にまで発展してきたこの運動を大切にしながら幅広く環境問題にまで発展させた教育活動をさらに展開したいと考える。令和元年の全国都市緑化祭は、松本市を中心に開催されたため美術科も含め全校で協力した。

エ) 松本芸術文化協会

第2代目の理事長故土手内始男(白樹)氏が日本画を修め、美術科誕生のきっかけにもなったこともあって松本芸術文化協会の活動を支援してきた。芸文協の理事をはじめ各種展覧会の審査員として本校教員が積極的に関与してきた。この活動を支援することは、専門科を持つ本校の存在意味からも大切であると考えます。

(3) 広報活動

開かれた学校づくりを推進するため、日頃の活動状況を発信し地域社会の方々に理解を深めてもらう活動は、法人にとって大切な活動の一つである。限られた予算の中から効果的に情報を発信するためには、様々なメディアを的確に利用する必要がある。中でも紙媒体はラジオ・TVと違い活字として長く目に残ることから積極的に利用してきた。その主なものは下記の通りである。

ア) 学校アピール

「美術科卒業展」 MG (旧タウン情報) 2月13日

イ) 入試関係

市民タイムス(1月6日)

タウン情報 (1月3日)

ウ) 儀礼

年賀・暑中見舞い (信毎・市民タイムス・県民新聞)

エ) その他

ニュース記事として信毎及び市民タイムスを中心に多数

(4) 学習活動等の概要

ア) 普通科

「国際理解」「環境科学」「生活文化」「園芸農業」4コース制

1. 普通科の年間活動目標

- (1) 生徒自らが学校は有意義な場所であると自覚できる教育を展開する。
- (2) 楽しくわかる授業を実践し、学び合うことを味わえる集団づくりや人間関係づくりを重視する。

2. 普通科の重点課題

- (1) 社会適応力を養成していく。(挨拶・礼儀の徹底。対外学習機会の充実
→ 校外活動への積極的参加)
- (2) すべての生徒の基礎学力を定着させる。
- (3) 教育課程の研究、より充実した内容を模索する。
- (4) 園芸農業の技術・知識習得を通し、逞しい人間力・社会人力の定着。(園農)
- (5) 調理・服飾の専門知識・技能の習得を中心に保育・介護等家庭生活力の伸長を図る。
- (6) 環境保全に寄与する態度の育成。(環境)
- (7) 日本文化・伝統の理解と共に異国文化(世界)の理解。使える外国語(英語)の習得。(国際)

3. 具現化に向けた取組み

- (1) インクルーシブな学習環境における「学び合い」を実践する。「国際理解」「環境科学」「生活文化」コースの学習発表会は横から縦に学習を広げる取り組みで生徒のプレゼンテーション能力を高めると共に生徒自身の学習目標も明確にしている。
- (2) 校外活動の活発化。外部団体との共同活動。→ 継続のものはより内容の充実へ新規のものを開拓

イ) 美術科

(1) 美術科の年間活動目標

困難にめげない強い心を持つ生徒の育成

(2) 期待する生徒像・理念

素描を基本に、徹底した基礎力・表現力を専門分野に生かした進路実現が出来る能力を身につけ、自ら考え行動でき、美術科生としてのプライドを持って将来社会貢献できる人材の育成

(3) 今年度活動目標・重点課題・具現化する取組み

- ・「個」の育成・充実 ・集中力と反復力を付ける。・自分で判断できる思考力をつける。
- ・美術における基礎・基本内容を個々や全体で徹底的に理解・修得・実践でき、協働することや表現において他者理解が出来るなどコミュニケーション力をつける。・講評に相互鑑賞を取り入れるなどして実のある振り返り学習を展開する。

(4) 将来の目標を持ち、学力向上・進路実現へ

◎学力をつける。

- ・模試の積極的実施

- ・センター試験では受験者増→受験者全員 6割を目指す→入試研究・調査・学科充実
- ・一般受験者→強い精神力を・一般受験者の卒制との両立実現サポート
- ・進路先の改革：自ら主体的に情報を取り入れる力をつける。経済的困難な生徒への対応

ウ) 福祉科

1. 福祉科の年間活動目標

『介護福祉士の養成（資格取得の実現）』

『介護技術の習得を通して福祉の心を育成する』

『積極的にボランティア活動に参加し、地域社会に貢献する』

- ①自主的に動ける生徒（リーダー）を育成。
- ②社会に出るための基本的な生活習慣を身に着ける（マナー）。
- ③人間力を高める。
- ④国家試験に対応できる学力をつける。

2. 結果と課題

- (1) 本年度の国家試験合格率は、8名中7名の合格で88.8%であったが相変わらず高い合格率を確保した。

参考資料（現役合格率）

卒年度	入学者数	卒業者数	卒時合格数	合格率	備考	H31.3.31 現
平成 15	7	6	0	0%	福祉科設置	16%
平成 16	5	4	1	25%		25%
平成 17	7	6	2	33%		33%
平成 18	13	5	1	20%		20%
平成 19	8	9	3	33%		33%
平成 20	10	8	1	13%		50%
平成 21	12	10	3	30%		90%
平成 22	7	5	2	40%		80%
平成 23	11	7	5	71%	新カリ移行	86%
平成 24	18	18	10	56%		67%
平成 25	13	11	11	100%		100%
平成 26	21	21	17	76%		81%
平成 27	14	13	13	100%		100%
平成 28	17	15	14	93%		93%
平成 29	9	9	8	89%		89%
平成 30	17	15	13	93%		
令和元年	12	8	7	89%		
計	201	162	104	64.2%		

(2) 入学者数は、多少の増減はあるものの介護福祉士養成指定校(新カリキュラムへの移行後確実に増加した。介護福祉士の合格率も平成 21 年度入学生を境に確実に向上しているので生徒数の確保を安定させたい。

(3) 入学生の目的意識は高く好感の持てる生徒に成長している。

エ) 教育職員の取組み

- ・わかる授業・身に着く授業は、最終的に本校財政基盤を強固にすることに繋がるので既成概念を取り払い生徒一人一人の欲求を掘り起こす指導法の研究をさらに望みたい。

オ) 開かれた学校づくりへの取組み

- ・地域との連携を更に強化し地域から愛される学校・必要とされる学校づくりに努めている。
- ・学校評価 学外の評価委員 8 名に委嘱し、年 2 回それぞれの立場から授業及び行事や生徒会活動、生活面等について意見聴取及び評価を戴き経営に反映させている。
- ・公開授業 学内向け・地域社会向け共にスケジュールの込み合う中で取り組んでいる。マンネリ化を防ぎ文化発信基地としてさらに務めたい。

カ) その他

- ◎美術科生徒数安定に繋がる効果的な対策 (力のある生徒確保・教務：入試広報との連携) や美術行事の充実
- ◎定期的かつ地道な中学校訪問でよりよい関係を構築する。
 - ・中学生の実態を調査し、効率の良いアピール方法を検討・実施していく。
(公開講座内容：パンフ提示・パネル展示・HP の充実・進路実績の提示)
- ◎公開講座・学校説明会・中学校訪問・出張授業の充実と結果報告・分析
- ◎卒業生の進路追跡調査と紹介・学内展示の充実